

結 論

オセルタミビル使用と異常行動発現の間に、
正の関連を検出するには至らなかった。

この結論は、調査データの特長（後述）に鑑み、慎重に解釈すべきである。

35

考察（結果の解釈）

OR 高値と関連（異常行動 A）

- ・男性：異常行動が確認されやすい？
- ・異常行動の既往：
高リスク因子として plausible. Recall bias による過大評価？
- ・最高体温：高リスク因子として plausible

OR 高値と関連

- ・インフルエンザワクチン接種：
接種を受けさせる保護者は異常行動を報告し易い？
- ・A型ウイルス感染：最高体温と関連、最高体温による調整不十分？
- ・アセトアミノフェン：最高体温と関連、最高体温による調整不十分？

OR 低値と関連

- ・年長：低リスク因子として plausible
-

36

考察 (調査データの特性)

1. データの信頼性

- Open question が多い
- 同一情報に関する複数質問項目の不整合

醫師記入用調査票

患者家族記入用調査票（時間軸記入、自由記載）

2. 選択バイアス

本当に克服できたのか？

3. 時間性

タミフル服薬時刻に関する情報は時間軸記入票のみ
異常行動発現時刻とタミフル服薬時刻の整合？

医師用		インフルエンザが流行している期間の中で、発症が最も遅い日から連続で10名~20名の調査をお願いします									
カルテ番号 (患者番号)		性別	□男 □女	生年月日	□昭和 □平成	年	月	日			
患者の 基本 情報	初診月日	月	日	□午前 □午後	時	インフルエンザの ワクチン接種		□0回 □1回 □8回			
	迅速診断キットによる診断	□陽性 □陰性	インフルエンザの診断		□A型 □B型 □不明						
	既往歴 (複数可)	☐ なし ☐ アレルギー ☐ 既往疾患 ☐ 心臓病 ☐ 糖尿病 ☐ 腎臓病 ☐ 慢性呼吸器疾患 ☐ 原発性免疫不全 ☐ 臓器移植・臓器移植後 ☐ その他 ()									
	発熱の発症	日	月	日	時	分					
	採血検査終了日(最終検査日)	月		日	時	分					
経過観察終了日(最終検査日) 月 日 時 分											
診療や「患者家族等交流」の記録などに基づいて臨床症状の経過を問うています。 (有)の場合 (最初の発症日時~その消失日時 (又は最終検査終了日時)) 病期は追記欄でご記入ください。											
診 断 状 況	発熱経過 *	□日 □有 (月 日 時 分 ~ 月 日 時 分)	☐ 急激性 ☐ 持続性								
	発熱性けいれん **	□日 □有 (月 日 時 分 ~ 月 日 時 分)	☐ けいれんの発作 ☐ 呼吸困難 ☐ 意識障害								
	寒熱性けいれん **	□日 □有 (月 日 時 分 ~ 月 日 時 分)	☐ けいれんの発作 ☐ 呼吸困難 ☐ 意識障害								
	異常行動・異常行動 **	□日 □有 (月 日 時 分 ~ 月 日 時 分)	☐ 異常行動・異常行動の発作 ☐ A B C D E F G								
	肺炎・気管支炎の併発	□日 □有 (月 日 時 分 ~ 月 日 時 分)	☐ 肺炎・気管支炎の併発								
	中耳炎の併発	□日 □有 (月 日 時 分 ~ 月 日 時 分)	☐ 中耳炎の併発								
	結核の併発	□日 □有 (月 日 時 分 ~ 月 日 時 分)	☐ 結核の併発								
注「患者家族等交流」に結果の使用日時 (分まで) が記載されていることを確認してください。 □コンタクト ☐ ケース ☐ ケース ☐ ケース ☐ ケース											
注「患者家族等交流」に結果の使用日時 (分まで) が記載されていることを確認してください。 □コンタクト ☐ ケース ☐ ケース ☐ ケース ☐ ケース											

表紙のやに ご記入をお願いします。				
生年月日	☐ 昭和 ☐ 平成	年	月	日生
性別	☐ 男	☐ 女		
初診日時	月	日	☐ 午前 ☐ 午後	時
最初に受診した日曜	月	日	☐ 午前 ☐ 午後	時
その時の体調 ☐ ☐ ☐				
予約券でに 使用した薬剤 (市販薬など)	☐ なし ☐ あり	薬名		

[illegible]

初期生データの信頼性

➤ 医師用・患者用調査票データの不整合

初診日時 1,582

最初の発熱: 日時 3,862 体温 1,466 (36.3~42.0 °C)

➤ タミフル使用 (+) 7,760 (医師用)
 → 服薬時刻 (+) 7,138 (患者用時間軸)
 → 服薬時刻 (-) 622

➤ 異常行動 (+) 1,425 (医師用)
 → 開始時刻 (+) 901 (医師用)
 → 開始時刻 (-) 524



調査票精査

異常行動 (+) 1,477
 → 開始時刻 (+) 1,261 (患者用/時間軸)
 → 開始時刻 (-) 216

39

時間性に係るデータ精査

調査票	初診	タミフル服薬	異常行動発現
医師用	2/14, 15:00		2/14, 17:00
患者(異行)			2/14, 19:00 pm
患者(時間軸)	○2/14, 15:30 →	2/14, 18:00 →	2/14, 19:00
医師用	○ 2/16, 19:00		2/16, 19:00
患者(異行)			○2/16, 19:00 pm
患者(時間軸)	2/17, 9:45 ←	2/16, 21:00 ←	2/17, 23:00
医師用	3/6, 午前		3/4, 11:00
患者(異行)			3/4, 11:00 pm
患者(時間軸)	○3/6, 10:00 →	3/6, 14:00 →	○3/5, 23:00
医師用	2/21, 9:00		2/21, 14:30
患者(異行)			2/21, 2:30 pm
患者(時間軸)	○2/21, 9:00 →	2/21, 23:30 →	2/22, 2:30

40

結 語

堅固なエビデンスを整備するためには、良好な
デザインのもとで「受診後に異常行動 A を発現
した患者を症例とした、case-control study」を
実施することが望ましい

インフルエンザ罹患に伴う 異常行動研究

臨床WG2008年7月10日
2007/2008シーズン報告

厚生労働科学特別研究事業
「インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動
情報収集に関する研究」主任研究者
国立感染症研究所 岡部信彦

1

研究班

主任研究者

- － 岡部信彦（国立感染症研究所感染症情報センター長）

分担研究者（五十音順）

- － 内山真（日本大学医学部精神神経科教授）
- － 大日康史（国立感染症研究所感染症情報センター主任研究官）
- － 谷口清州（国立感染症研究所感染症情報センター第一室室長）
- － 宮崎千明（福岡市立西部療育センター長）
- － 桃井真里子（自治医科大学小児科学教授）

2

報告の内容

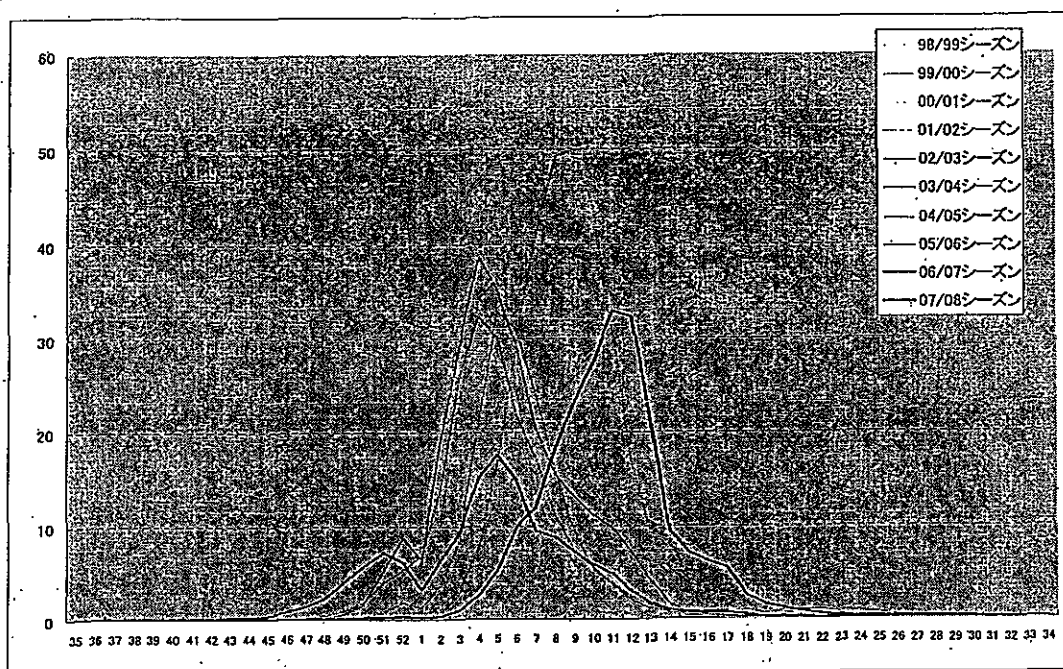
- インフルエンザ2007／2008シーズン
- 調査概要
- 重度の分析
- 軽度の分析
- まとめ

3

インフルエンザ
2007／2008シーズン

4

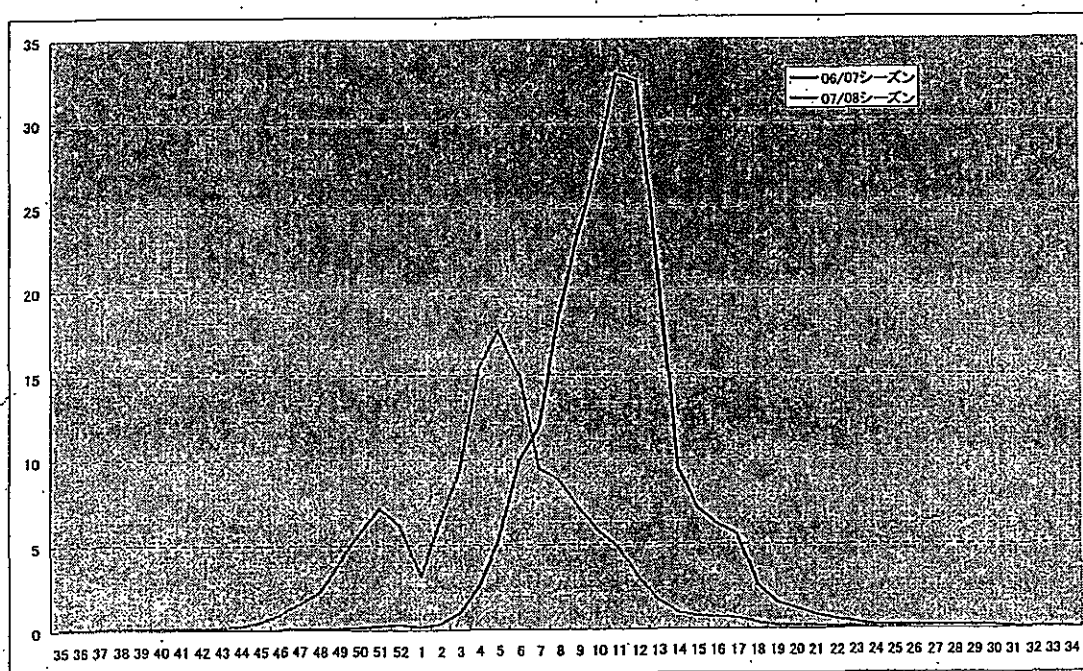
図1.インフルエンザ患者報告数



5

出典:発生動向調査

図2.インフルエンザ患者報告数



6

出典:発生動向調査